

第3回政策決定会議概要

H30. 10. 30

出席者

町長、副町長、教育長、秋谷行政推進部長、鳥海町民サービス部長、田辺保健福祉部長、石井まちづくり部長、加藤教委参事

1. 酒匂川サイクリングコースの移管について（まちづくり部）

*資料に基づき説明

- : 平成 29 年 11 月に県と現地調査を実施したとあるが、一年近く経っていることから再度現地確認する。
横浜トヨペット先から水辺側に入る場所は自由使用ということで民間の車両が進入し、サイクリングコースを横断することから、その部分はコンクリートとするよう県に依頼した。
- 3つの行政区域にまたがるため、明示する標識等の設置を依頼したが、河川占用の関係で難しいという回答が来ている。
- : 県の管理上、占有は2Mだが両サイド50センチずつ草刈りをしている。河原町のボランティア団体がやってくれている箇所もあるが、草刈りや補修で年間200万円かかるとのこと。それが占有の条件なのかという曖昧な部分があるのではっきりするようお願いをしている。3Mあればそういった問題もない。
- : 50センチは青少年課で法面は土木なのか？
- : 占有は2Mなので原理原則からすれば青少年課がやる必要はない。
- : 占有していない所をやる時は許可が必要になるのではないかとということもあったが、そこは県同士ということだったと思われる。
- : 財政的には、毎年200万円かかるのかという話になるので、占有部分以外は町では草刈りをやらないという確認が取れば良いと思う。
- : 左岸は大井町と松田町が天端いっぱい占有を受けている。
- : 草刈りをする必要があるのか確認したが、必要ないとのことだった。
足柄大橋から下流が酷い。シルバーの派遣の方にでもやってもらえればよいのでは。
- : 基本は土木がやって、それ以外に必要な時は町がやるということであればよい。
- : 開成町のボランティアが少ない現状がある。
- : 青少年課が200万円の予算を持っているのであれば、それを土木に回してくれれば良い話。それが引き受ける条件としてどうか。
- : それは県が不要と言っている。
- : サイクリングコースとしての運用上は不要かもしれないが、町としては枯葉に火が

- ついて危ないのではないかという問題がある。
- : 県はそういうことは意識していない。青少年課の予算を土木にとってもやらない。移管を受けると安全上の問題からやらざるを得ないが距離はない。
 - : 基本的には土木に要望して、町にも派遣もいるのでイベント時等にはやってもらうのかなというのが現実的なイメージ。
 - : 十文字橋から上流はほとんどない。
 - : 栢山とか旧小田原土木管内はきれい。
 - : 小田原は何Mで整備しているのか？
 - : 同じ2M。小田原市はイベント等を考えていない。
 - : 移管の理由がこじつけ感がある。移管できない場合は廃止するとあるが本当にできるのかと県に聞いた。1,000万円以上かかる。
 - : 県に苦情が殺到する。
 - : ジョギングや散歩などで利用者が多く危険。ビオトピアもできたのだから山北を周るようなコースができれば良いと思う。
 - : 歩行者がいることの促しが必要。
 - : スポーツタイプに乗っている人はマナーが良い人が多いが、逆に歩いている人の方がサイクリングコースという認識が薄い。
 - : 移管後の管理体制はどのようになるのか？2市1町にまたがるが協議会等がたち上がるのか？
 - : 県には、移管は承知したが、運営部分については県で組織をお願いできないかと言っている。
経緯を確認したが、そういった話もあったようだ。
 - : 利用者の対応等、現実問題あまり考えていないように思う。
 - : 移管後の所管は、組織機構の見直しの際に考えてもらわないといけない。
 - : 南足柄市は広域ということで調整は企画なのか？
 - : 開成町ではスポーツ施設ということで、移管後は水辺スポーツ公園担当課で所管することしたい。

2. 給水装置使用開始・中止手数料のあり方について（まちづくり部）

*資料に基づき説明

- : 料金改定の時に廃止するということか？3年に一度見直しているが据え置きの場合はやらないということか？
- : 手数料をやめても今の水道料金でいけるということであればこれだけやめるという選択もあり得る。

- : 行革的にも3年に一度見直すようにとされている。
- : 運営協議会の答申を無視するわけにもいかない。
- : 窓口的には手数料徴収事務をどうしていくのかというのを議論している。
特に影響が無いのであれば廃止していただきたい。
- : 新庁舎でのワンストップを考えるといちいち窓口で700円を徴収するのかということになる。
- : 場所の問題もある。
- : 委員からは町役場がやっているのではないのだから企業の観点を持ってくれという意見もあった。4市町あるが、中止しない所もある。中止しなければ基本料金は入ってくる。ただ、防犯上の観点から閉栓している。
- : 基本的には開閉栓は職員がやるが、手数料は取らないということか？
- : やめるということになればそうだが、止めないということも考えなくてはいけない。
- : 徴収していない市町村は元々取っていなかったのか、それともやめたのか？
- : 元々は取っていたと思う。県水を使ったりとか事情が違う。
- : 都市部などではいちいち開閉栓作業をやってられないだろう。
120万円では水道料金に上乗せしてもほとんど影響はないと考える。
- : 元々の料金自体が安いので上乗せすることはできる。
- : 平成32年4月を目途に料金の見直しとともに平成31年度中に検討するという
ことでよいのでは。
- : 今回の結論としては、ここでの手数料の廃止はしないということとする。

3. 開成町防災行政無線の整備方針について

*資料に基づき説明

- : 従来式と低廉化新方式で金額がまったく同じだが？
- : 廉価版というのは金額というより従来整備しようとする電波の方式を使うとかなり高くなってしまいがそれを廉価版ということで国が設計を見直して新しいバージョンで作った。
特徴の違いは端的に言えば電波の性質が12キロ、これは直線的な目視が効く到達距離だが、これが12キロ。低廉化版では28キロであるのが大きな違い。
遠くに届くということでは、様々な気象条件や屋内、屋外の電波の到達状況に違いが生じてくる。低廉化方式の中では、デジタル無線を受信するとなると屋外アンテナ等の個別受信機が必要となってくることもあるが、そういったものが少なくなってくる。

- : 考え方としては、機械そのものはほぼ同じということか？
- 従来方式と低廉化方式で金額がまったく同じということは、整備する機械は同じだが扱う電波が違うということか？
- : 機械が違うから電波が違ってくるとのこと。
- : 機械が違って金額が同じというのが分かりにくい。
- : 低廉化方式にしたことによって、従来方式でできていた内容がいくつか省かれている。電子データの通信、子局と子局の通信ができていたが、実際こういった機能は使うことが無い。従来方式と同じ機能を持たせようとすると金額が上がってしまう。従来方式と比べて安くなったということではなく、この方式で整備した時に必要でない機能を省いたという意味での低廉化。
- : ということは一番高いシステムということか？
- : 最新式ということになる。
- : 従来だと 12 キロでこの方式だと 28 キロということは分かるが、双方向通信が従来も低廉化ともに○になっているが、子局同士で通信できないのだから△ではないのか？
- : 現在採用しているアナログ無線と変わらないため○としている。子局と子局では通信しない。
- : 他システムとの比較ではなく、整備方針に対して○なのか△なのかということ。
- : 最後に○がいくつ、△がいくつとなっている。
- : 比較要素に要らないのでは。要素にとして関係のないものを入れて○の数を数えても意味がない。従来方式と低廉化方式で違うのは到達距離だけである。
- : 今までと金額は同じであるが、性能が良くなるということだと思う。
- : そもそも開成町においては 12 キロあれば十分なのでは？
- : 到達距離というのは無線のワット数とかに左右されることはある。
最終的には無線局から許可がおりるわけだが、その時に何ワットになるかというの
はあるが、最大限使おうとすると性能の差があるということ。余裕を持った性能の
方がより良いシステムと考える。
- : 到達距離が長いと出力を落とせと言われないか？従来方式と低廉化方式が○一つ
しか変わらない。強い電波は出せるかもしれないが、許可の時に到達しすぎると下
げられる。
- : 電波の質の中で、屋内や悪い気象条件でより到達できるということ。開成町の町域
を考えれば 10 キロ到達すれば十分だろうというのは分かるが、そこでも電波の質
によることがある。
- : 比較表の中で、距離ではなくそこを書くべきと考える。
- : デジタルだと遮蔽物があると通りにくいと思うが、こちらなら通りやすいという
のであれば明らかな違いがあるが。こちらの有利であるということがあれば良い。

- : 他の要素は同じなのでこれだというものがあれば良い。金額も同じ。
- : 15年先に機能するものということも考えなくてはいけない。
- : ライフサイクルコストというのは15年間のものか？
- : 総額だが、金額が一人歩きするといけませんが、この中には工事費や諸経費は含まれていない。
- : イニシャルコストには工事費も含まないとはいけません。
- : 工事費はどの方式にも入っていない。
- : 現在の設備を置き換えた場合の費用とあるので工事費も入っていると考えるのはよいのでは。
- : マストの数は少なくなるのか？
- : 可能性はある。
- : スピーカーから出る音の強さをセットしているだけでは？
- : 障害物があるとそれをカバーするためにマストを増やす必要がある。
- : それは今調査していて4か所は増やすことになる。
- : 物は入っているが建てる工事費は入っていないということ。
- : 工事費というのは全体のことを言うが、一本当たり600万円かかる。音波の到達調査をやっているが4本必要ということ。耐用年数を過ぎている柱もあるが、根元が腐食しているものも3か所ある。
- : たとえば、東日本大震災でいえば、津波対策について、福島原発なども金が無いからやめた結果がああいうことになった。専門家が出してきたもので判断するしかないと思う。安物買いの銭失いになってはいけないと思う。
- 工事費については、電波システム的设计屋だから分からないのかもしれない。
- : 説明を上手くしないとはいけません。同報系の初期投資はいくらなのか？
- : 比較表の作りで、こちらの方が明らかに有利だと示す書き方があると思う。
- できれば金額の中味やこの業者に算出できないのはいくらなのかということを出してもらえばよい。
- : 他の方式を使うと工事費も安く収まるとかなると全体の中では話が違ってくるのではないか。
- : 性能で見るのであってコストの話は良い。
- : 小さいとは言わないが億にはならない。
- : 性能プラス、ライフサイクルコストでみていく必要がある。
- : 移動系については2系統で考えている。15年間使っていく訳で、性能もみて議論する必要がある。
- : ナロー方式の良さというのをもう少しどういふふうかということ。自営のために迅速な復旧が可能とあるが、通信業者に依存するより自営の方が本当に良いのかということが気になる。

- : コストや方式の違いを素人にも分かるようにしてほしい。
同報系はこの提案で良いと思う。
- : 近隣では、大井、松田、山北は低廉化方式を採用または採用予定。
- : 金額的にはどのくらいなのか？
- : そこは分からない。
- : 移動系は次回とする。
- : アンテナの設置場所を議論したい。県防災を町民センターに設置できなければ保健センターテラスとなる。
- : 防災行政無線は町民センター屋上。
- : 町民センター大規模改修は後期計画の次としている。現実雨漏りもしているわけで屋上をいじくらないわけにはいかない。それに支障が出ると困るが乗せられるものは乗せてしまえば良いと思う。
- : 電波のことを考えたら高い方が良いわけで、屋上に乗せられれば良いと思う。
町民センター自体の耐風がどれくらいあるのかを調べてほしい。
- : 保健センターの所は子どもたちが遊んでいることが多い。
- : その場合は柵を設けるようだろう。
- : アンテナの位置が決まらないと設計に入れないので承知して欲しい。
業者とよく調整する。震度計は南側駐車場ということで承知していただきたい。